



伊丹市の木「クスノキ」

ひかり

第53号 人権・同和教育だより

発行：伊丹市人権・同和教育研究協議会

〒664-8503 伊丹市千僧1丁目1番地
伊丹市教育委員会事務局人権教育室

TEL.072-784-8113

2026(令和8)年3月発行



2025年度伊丹市人権・同和教育研究協議会 全体研修会

映画『ラーゲリより愛を込めて』 上映会と平和と人権のパネル展

日時 2025年8月6日(水)
場所 東りいたみホール

市民一人ひとりが生命の尊厳を考え、人権尊重の意識を高め、差別のない明るい社会を築くための研修を行うことを目的に、映画『ラーゲリより愛を込めて』の上映会と平和と人権のパネル展を開催しました。

映画について

『ラーゲリより愛を込めて』は、2022年12月9日に公開された、辺見じゅん原作のノンフィクション『収容所(ラーゲリ)から来た遺書』を映画化した作品です。

終戦80年を迎え、伊丹市が平和都市を宣言してから35年、戦争を体験された方が少なくなっていること、今なお国際紛争が続いていることから、本映画を通じて、命の大切さとともに戦争の悲惨さ、平和の大切さを市民の皆様と一緒に考える機会にしたいとの思いから、伊丹市と連携して上映にいたしました。



祖母の話から

この記事を書くにあたって、戦争経験者の祖母に話を聞きました。

田舎だったから空襲は免れたんだと話してくれたきりでしたが、先日ぼつりと、空襲のサイレンが響いてくると慌てて灯りを消して、窓を毛布で覆ったものだと話してくれました。外に町の灯りが漏れて空襲の的にならないように、あの戦闘機がどこに向かうのかを想って涙を流しながらも、灯りを消して息を潜めて、ただサイレンが鳴り止むのを待つしか無かったと。

「あなた達はどうか、戦争なんて悲惨な経験をせずに、平和な世界で健やかに人生を謳歌してね。」と子どもたちの頬を撫でてくれた祖母を見て、大好きな祖母が悲惨な戦争を生き抜いてくれた事への感謝と、自身が大変な思いをしてお決して同じ思いを他の人にはさせまいと願ってくれる深い優しさに胸が震える思いでした。

毎朝、大切な家族に気軽に「行ってらっしゃい。」と言える事。一日の終わりを暖かな灯りの下で家族で楽しくわいわいお話ししながら迎えられる事。そんな「当たり前だと感じていた日常」が、どれだけの人の犠牲や涙、願いの上で繋いでもらったものなのかを理解して、改めて日々感謝して過ごしたいと思いました。

そして、この平和は絶対に失われてはならないのだと強く感じました。

映画の感想

- 10代未満 想像したらもっと怖くなった。パパがいなくなったらどうしよう、と怖くなった。
- 10代 この広い世界の中で起こっていることは他人事ではなく、自分にも起こりうることだと考えることができた。
- 20代 戦争、平和と人権、人との関わりについて見つめなおすきっかけとなった。
- 30代 今、生活していることが当たり前ではないことを心に置いて、明日から生活したい。
- 40代 遺書を届けるシーンはとてもつらくもあり、涙なくしては観られないシーンだった。人の想いの貴さを感じた。
- 50代 戦争の生々しさがとても辛かった。今、平和に生きていることに感謝。命を繋いでくれている親を大切にしたい。
- 60代 戦争は絶対にいけない。人間はしっかり学ばなければならない。もう間違いは許されない。
- 70代 人への思いやりや優しさ、困っている人を助けることを、子どもの頃から家庭や学校で学ぶことは大切。
- 80代 戦争は二度と起こしてはならない。私の父が4人の子を残して戦争に赴いた気持ちを考えさせられた。

平和と人権のパネル展の感想

- 実際の絵を見ることができて、とても貴重な経験となった。
- パネル展示は平和への願いが心に深く突き刺さった。
- 平和の絵手紙に込めた思いに感動した。自分の思いを形にする大切さを学んだ。
- 体験された当事者が残してくれた言葉や絵は心に刺さる。苦しみの中で生き抜いてくださったことを無駄にせず、生きていきたい。

「夢と絆～「北」での二十四年間、そして、今～」

2025年11月1日(土)に「差別を許さない都市宣言制定記念市民集会」を開催し、新潟産業大学経済学部特任教授であり、北朝鮮による日本人拉致被害者である蓮池薫さんから「夢と絆～「北」での二十四年間、そして、今～」と題して講演いただきました。



講演内容と参加者アンケートを紹介します。

講演会の内容

- ① 日本人拉致の目的は
- ② なぜ北朝鮮は拉致を認めたのか
- ③ 日本人拉致問題が「解決済み」ではないのはなぜか
- ④ 今、何が必要なのか、私たちに何ができるのか

【日本人拉致問題とは】

1970年頃から1980年頃にかけて、北朝鮮による日本人拉致が多発しました。北朝鮮はスパイ活動に利用するため、日本人を連れ去りました。現在17名が政府によって拉致被害者として認定されています。2002年には、5人の拉致被害者が帰国を果たしましたが、今なお12名の方が帰国できない状況にあります。

【今もなお日本人拉致問題が解決済みではないのはなぜなのか】

北朝鮮は、拉致被害者のうち生存している者は全て日本に帰国させたとし、残りの拉致被害者は「死亡」または「未入国」とし、拉致問題は「解決した」と主張してきました。しかし、北朝鮮が「死亡」とする根拠が納得のいくものばかりではありませんでした。北朝鮮が拉致を認めたのに、まだ帰国できない人がいて、この問題が解決済みでない理由としては、拉致被害者が日本に帰国することにより、スパイ活動など、北朝鮮にとって不都合なことが明らかになることを恐れているためと考えられています。

【今、何が必要なのか、私たちに何ができるのか】

拉致問題を知る

北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメや政府の拉致問題対策本部公式YouTubeなどを視聴し拉致問題に対する理解を深める。

周りの人に伝える

拉致問題について学んだことや感じたことを、家族や友人に伝えたり発信したりする。自分の理解が深まるとともに、多くの人がこの問題を知るきっかけとなる。

関連行事への参加

全国各地で行われている集いや、映画上映会に参加する。



拉致問題のことをみんなが知っている、忘れてはいないという思いが北朝鮮に伝わるように、この出来事を風化させないことが大切です。しかし、北朝鮮全体を非難しているわけではなく、拉致された日本人を今も返さない指導部に対して、考え方を変えるようメッセージを送っているため、北朝鮮を一括りにして批判的に見ることは違う、ということ伝えていくことも大切です。

一人ひとりが拉致問題に関心を寄せ続け、伝え合うことが問題解決に向けた力強い後押しとなります。

アンケートの感想から

20代

* どのような経緯で拉致被害が起きたのかあまり知らなかったが、問題の本質を知ることができて良かった。拉致問題について、若い世代もしっかりと知識をつけて、問題解決への橋渡しになる必要があると強く感じた。

50代

* 拉致問題は人権侵害以外の何ものでもないと感じた。拉致された方だけでなく、ご家族、周りの方、日本国全体が被害に遭ったのだと思います。北朝鮮の一般市民には罪はなく、指導部が自国の人も苦しめているかもしれません。私たちにできることがあるとすれば、署名をすとか身近な人に話すことぐらいかもしれませんが、日本人として一日も早く解決することを祈っています。

70代

* 蓮池さんの講演を聞いて本当に良かったです。拉致された一人一人の人権を蔑ろにしてはいけない。私に何ができるのか。さらに関心をもちつつ、苦しんでいる人の声に耳を傾けつつ、できることを探していきたい。

インターネットと人権

～加害者にも被害者にもならないために～

講師 関西大学社会学部 教授 **内田 龍史さん**
うちだ りゅうし



社会教育・農業部会

日時 2025年9月30日(火)

場所 伊丹市立総合教育センター 3階 多目的室



現代ではSNSを通じて人と人がつながるのが当たり前になりました。その一方で、差別や偏見が拡散されやすい社会でもあります。そのことを踏まえ、研修会を実施しました。

人権を基盤とした社会づくりと、「学び・出会い・経験」を大切に、マイノリティへの理解を深めることが、差別のない社会への第一歩であることを改めて認識することができた研修会でした。

社会における差別現象について

差別は単なる個人の問題ではなく、社会現象であり、社会は「マジョリティ」の価値観を前提として成り立っており、「マイノリティ」は不利益を受けやすくなる。人権とは「誰もがその人らしく生きる権利」であり、マイノリティができるだけ不利にならないための取り組みが不可欠である。

インターネットを介した部落差別

インターネット上で「こわい」「ずるい」などの過度な一般化によって差別が再生産され、確認バイアスやネガティブ・バイアスによって、誤ったイメージが強化されてしまう。また、匿名性と拡散性が問題をさらに深刻化させている。

差別をなくすために

差別をなくすには、マジョリティがマイノリティと直接的にであって良好な関係を形成することが望ましい。難しい場合は、書面や映像などを通じた「間接接触」や、マイノリティと仲良くしている人が身近にいる「拡張接触」が有効である。

参加者の感想 ※一部抜粋

- インターネット上の人権侵害が個人間の問題ではなく、社会構造や集団関係(マジョリティ)の中で生じるものであると、再認識しました。今後は啓発活動として加害・被害の二項対立を超えた視点を意識していきたいと思います。
- 本当に何が間違っているのか見極められるようになりたいし、出会いや経験、学びを大事にしていきたいです。

企業部会

日時 2025年10月24日(金)

場所 伊丹市立総合教育センター 2階 研修室



第2回企業部会では、社会問題となっているインターネット上の差別について研修会を実施しました。市内企業12社が参加し、差別のメカニズム、インターネットの特質、企業活動において発生しうる人権リスクについて学びました。

企業にとって、セクハラやパワハラなどのハラスメントはもちろんのこと、性別や国籍などに基づく労働条件における差別の事案はSNSやインターネットを通じて拡散され、重大な損失をもたらすことになります。

研修会では、さまざまな人権問題に関心を持ち、基本的人権を侵害しないよう人権意識を高め、必要な取組を進めることの重要性を再認識するとともに、「学習と経験」(差別や人権について学び、であること)が偏見や差別の解消につながるということ(接触理論)を学びました。

※法務省ホームページに『今企業に求められる「ビジネスと人権」への対応 詳細版』が掲載されていますので、研修教材としてご活用ください。



参加者の感想 ※一部抜粋

- 「接触理論」について初めて聞きましたが、自分自身も体験した話であり共感できました。
- 基本は人権尊重の関係で、人権感覚を鋭くすること、想像力を豊かにもつことだと再認識しました。
- 差別克服のためにできることの話が具体的でよかったです。
- 差別と社会について、大変わかりやすく理解できました。
- あえて出会い、学び、経験することで差別が解消されるという話が印象的でした。
- 企業にとって、人権尊重の取組の重要性を再認識することができました。



市内の公立幼稚園、保育所(園)、こども園が所属する「伊同教就学前教育部会」は、全体テーマを『人権教育の基礎を培う 教育内容を創造する』とし、南部・中部・北部の3つの組織に分かれ活動しています。

今年度の北部ブロックは、『身近な生活の中で偏見に気づき、自分の人権感覚を見直し、考える』をテーマに研修を行っています。第1回研修会では幼稚園・保育所(園)・こども園の全職員を対象に『部落問題を通して、自分自身の人権感覚を振り返る』を課題に取り上げました。講師に伊丹市人権教育指導員の田中章子さんを迎え、講演を聞き、グループ討議を行いました。1922年の全国水平社創立から100年以上が経った現在も差別はなくなっていないのが現状です。研修を通して、当事者の気持ちや周りの人との関わりなど直接話を聞いたからこそ、自分自身のこととして考えなくてはいけない課題だと、それぞれが自身の人権感覚を見つめ直すきっかけになったと感じています。



グループ討議より

- 「見て見ぬふりをしていないか」という言葉が響いた。差別を「しない」ことから「なくす」ためには何ができるか、考えていきたい。
- 正しい知識を得ることが大切なので、このような研修は必要であると改めて感じた。

また、職員・保護者を対象に、『子どもの権利条約から“子どもの人権”について考える』をテーマとし第2回研修会を行いました。日本ユニセフの動画チャンネルや子どもの権利条約第1～40条抄訳一覧を活用し、「子どもを大切にするととは?」「子どもの人権を保障するとは?」と日々の保育・子育てから、子どもの人権について見つめ直すきっかけになりました。

保護者アンケートより

- 自分(親)の意見を子どもに押し付けていると感じることが多い。親の考えを押し付けず、子ども自身の気持ちや考えを尊重していきたい。
- SNSの普及で写真や動画を簡単にネットにあげることができる時代であるため、大人が良識ある使い方をしないと、子ども自身が知らないところで子どもの権利を侵害してしまう恐れがあるため、配慮が必要であると感じた。



ジーン&ケーン学んでみよう!
子どもの権利条約
～ みんなが大切にされる毎日を～

京都市の「立命館大学国際平和ミュージアム」と「ツラッティ千本」へ行って来ました!

ミュージアムのエントランスに入ると、手塚治虫さんが寄贈した「暗い過去と明るい未来」の2羽の火の鳥に迎えられ、1階の特別展では「戦後80年、ベトナム戦争終結50年」が開催されており、アメリカに対する民族的抵抗に共感する反戦運動が世界規模で展開され終結に繋がったことを知り、現在世界で起きている数々の紛争に対して何ができるのか考えるきっかけになりました。地下のメイン展示場は広くて一つ一つ見ていくというよりは、ポイントを決めてボランティアガイドさんと話をしながら理解を深めていく学習になりました。

連れ合っの語源を持つツラッティ千本は、中世からの資料がたくさん残っていて被差別部落の歴史と闘争が時系列でみることでわかりやすく、「貧困から立ち上がるには教育が大事」との理念のもと、私塾から始まりいち早く被差別部落内に小学校を開校させました。それこそ同和教育の普遍化・人権教育推進の礎になったと思います。

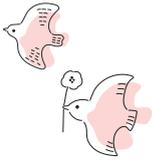
特別展「被差別部落と在日コリアン」～京都千本における100年の記録、そして未来へ～では、1967年に京都朝鮮第3初級学校が千本地域に創設されて以来、深い連携をして教育活動や地域活動に取り組みされてきたことなど、資料が充実していて見ごたえのある特別展でした。

歴史を知ることによって、今自分は思うのか、何ができるのか考える機会を貰えた意義深い管外研修でした。



参加者の感想から

- 京都の歴史は、部落の歴史と深くかかわっていることを管外研修に参加するたびに感じます。決して過去の出来事ではなく、現在の社会や生活と地続きであることを忘れないようにしたい。
- 悲惨な戦争があったことを見ずえ、そこから至った経緯をしっかりと学んで、今の私たちにできることを考えていきたい。



日時

2025年10月1日(水)

場所

伊丹市立総合教育センター 3階 多目的室

講師

正井 禮子さん(認定NPO法人女性子ども支援センターウィメンズネット・こうべ代表理事)



男女共生部会では、DV・性暴力・貧困など困難を抱える女性や子どもたちの支援に長年取り組み、2024年に支援住宅「ミモザハウス」を開設した正井禮子さんを講師にお招きし、これまでの活動・ミモザハウスの状況などをお話いただきました。

正井さんは33年前、男性中心の社会構造の中で女性の声が行政に届かない現実に直面し、“弱い立場にある人も当たり前の生活を営むことができる社会”を創ろうと、支援活動を始められました。1992年に、共通の悩みを語り合える場「ウィメンズネット・こうべ」を設立し、1994年に困難を抱える女性や子どもたちのために「女たちの家」を開設されます。阪神・淡路大震災では電話相談や避難所支援に取り組み、2013年には母子を継続的に支援する「WACCA」を開設し、支援を続けてこられました。そして、2024年6月に「六甲ウィメンズハウス ミモザハウス」を開設。デンマークで見た“安心して暮らせる家”の理念を反映した支援住宅であり、そこでは今、子どもたちの元気な声が響いているそうです。

「あなたを信じます」「あなたは悪くない」「あなたは一人ぼっちではない」「力になります」。正井さんが提示する“支援のための4つのメッセージ”を通して、人権が尊重される社会づくりにおける大切な指針を学んだ貴重な研修会となりました。

六甲ウィメンズハウス ミモザハウス

さまざまな困難を抱えた女性やシングルマザーとその子どもが、孤立せず安心して暮らし自立していけるよう支えていくサポート付きの住まい

※敷金・礼金・仲介手数料なし

詳しくは
こちら



各分科会
の
発表テーマ

第52回 伊同教研究大会

今年も伊同教研究大会を開催しました。各分科会において取り組んできた研究の報告、意見交流をしました。各分科会のテーマは以下の通りです。

就学前教育分科会

・一人一人の思いを受け止め、子ども同士をつなげる保育

小学校教育分科会

・スマイルルーム登校の取組～スマイルルームの一日～
・仲間づくり集会～一人ひとりが、仲間と向き合う～

中学校教育分科会

・生徒一人ひとりの学びと進路を支えるために ～校内教育支援センターの取組とその成果～
・人権教育について教員の研修を重ねて～人権教育をアップデート～

高等学校・特別支援校教育分科会

・本校におけるLGBTQに関する人権教育の取組とその成果
・交流及び共同学習から考える人権教育～ともに時間を過ごすことで気付くこと～

社会教育・農業分科会/ 企業内教育分科会

・サイバー差別の構造と克服への挑戦 ～「拡張された接触」の可能性～

PTA活動分科会

・講演会 演題『不登校の現状と対策～親子の不安を安心に変える考え方～』
講師：福島 美由紀さん(スクールカウンセラー)

男女共生分科会

・女性支援の新しい時代を考える

人権教育分科会

・『過去を学び未来に紡ぐ』
①立命館大学国際平和ミュージアム+アウシュヴィッツ・ビルケナウ博物館を訪れて
②ツラッティ千本で被差別部落の歴史を学ぶ

㊦ 伊丹市人権・同和教育研究協議会（伊同教）とは ㊦

差別を許さない都市「伊丹」を実現するため人権・同和教育の研究と実践を行う目的で1970年に市民により結成されました。以来、人権尊重の理念の普及・定着を図りながら、お互いの存在や尊厳をかけがえのないものとして、すべての人の人権が尊重される社会の実現を目指して、その活動を進めてまいりました。伊同教には、7つの専門部会があり、研修会等を行い、人権教育の啓発を推進しています。

伊同教に賛同されている団体・企業名（2026年2月末日現在）

- アイケー電機(株) ■特定非営利活動法人ICCC ■尼崎信用金庫伊丹支店 ■尼崎信用金庫伊丹西支店
- 尼崎信用金庫稲野支店 ■尼崎信用金庫鴻池支店 ■尼崎信用金庫昆陽里支店
- 尼崎信用金庫桜台支店 ■尼崎信用金庫野間支店 ■石崎プレス工業(株) ■伊丹産業(株)
- 伊丹市自治会連合会 ■(社福)伊丹市社会福祉協議会 ■伊丹市PTA連合会
- 伊丹市民生委員児童委員連合会 ■伊丹市老人クラブ連合会 ■(一社)伊丹青年会議所
- 伊丹ダイキン空調(株) ■伊丹モラロジー事務所 ■上野製菓(株)伊丹工場 ■(株)オイシス
- 金井重要工業(株)繊維機器製造所 ■(株)関西スーパーマーケット ■小西酒造(株)
- サカタインクス(株)大阪工場 ■人権擁護委員協議会伊丹市部会 ■住電機器システム(株)
- 住友電気工業(株)伊丹製作所 ■セツツカートン(株)伊丹工場 ■大日化工(株) ■ダイハツ工業(株)
- (株)但馬銀行伊丹支店 ■東リ(株) ■(株)徳島大正銀行伊丹北支店 ■(株)徳島大正銀行伊丹支店
- 豊能運送(株) ■ナミコー(株) ■日本板硝子(株)技術研究所 ■ハウスウェルネスフーズ(株)
- (株)阪神自動車学院 ■兵庫六甲農業協同組合昆陽池支店 ■部落解放同盟兵庫県連合会伊丹支部
- (株)PLASiST ■松谷化学工業(株) ■(株)三井住友銀行伊丹支店 ■(株)三菱UFJ銀行伊丹支店
- 三菱電機(株)高周波光デバイス製作所 ■(株)みなと銀行伊丹支店 ■山崎産業(株)伊丹工場
- (株)りそな銀行伊丹支店 ■伊丹市交通局 ■伊丹市上下水道局 ■伊丹市立伊丹高等学校
- (公財)いたみ文化・スポーツ財団 ■(公財)柿衛文庫 ■市立伊丹病院

(敬称略、順不同)

上記団体・企業様より分担金をいただき、活動費に充てさせていただいています。

編集後記

多くの方にご協力いただき、「ひかり53号」を発行することができました。感謝申し上げます。伊同教の1年間の活動をわかりやすく市民の皆様にお知らせすることができればと思っています。ぜひ、ご一読ください。

編集委員

山本 美月(就学前教育部会)	岩崎 千夏(進路保障部会)	坂本 泰朗(社会教育・農業部会)
井手 留美(PTA部会)	相崎 佐和子(男女共生部会)	仲野 知子(企業内教育部会)
寺岡 とも子(人権教育部会)		



 **住友電工**
Connect with Innovation

＼くらしにいいね。/
ITAMI
伊丹産業株式会社